

第2回城南緩和ケアのつどい
がんになったら緩和ケア
～緩和ケアへの道案内いたします～

申請者氏名 秋山修
日本赤十字社センター緩和ケア科部長
〒150-8935
東京都渋谷区広尾4-1-22
提出年月日 2009年10月30日

第2回 城南緩和ケア 市民のつどい アンケート結果報告書

I 『第2回城南緩和ケア 市民のつどい』について

●概要

『第2回城南緩和ケア 市民のつどい』（以下、当セミナー）は、緩和ケアおよびその情報収集方法について、市民の方が自ら積極的に行う姿勢を持っていただくことを目的に、情報提供の場として企画した。セミナー告知は友人・知人や医療関係者の紹介（口コミ）のほかポスター・ちらしや新聞などの紙メディア、インターネットやケーブルテレビなどの電子メディアの活用を試みた。

●内容詳細

市民の方が自ら積極的に行う姿勢を持っていただくことを目的に、ポイントを以下2点に絞りこんだ。

第1部 がんについての情報を得る具体的な方法

第2部 緩和ケアを行うにあたり、街の専門家がどのように関わるのか

第1部では、インターネットの具体的な活用方法について2名にご講演いただいた。講演者は、情報提供者と、治療を受ける過程で有効な情報を得たいがん患者の両側面の立場がわかる構成とした。これらの「情報活用について」の評価は「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」の合計88.3%と約9割の方から高い評価を得た。

特に、実際にがんを体験している人の声には重みがあり、市民は「将来の自分の身に起こるかもしれないこと」として捉えられるきっかけとなったことが、フリーコメントから読みとれる。一方で、インターネットの情報活用について、がん患者の割合が高い高齢者が、どの程度インターネットを活用できているのか読み取れないという現実的な意見もあった。

第2部は、模擬患者の事例を設定し、街の専門家が緩和ケアについてどのように関わるのか、各々の視点・立場から意見を発表する模擬相談会形式で行った。緩和ケアに対する漠然とした先入観や疑問（「緩和ケア病棟への入所は難しいと聞いていた」「どこに相談したらいいのかわからない」等）を解消できる内容であったことから、参加者満足度87.0%の高評価に繋がったものと考えられる。

●結果

当日参加者は103名、うちアンケート調査有効回答率は約75%であった。当セミナーを知ったきっかけの約50%が口コミ、インターネットやポスター、新聞などが約40%とメディアも集客に貢献。中でも一般参加者35名のうち、組織に従事者（会社員、自営業等）のインターネット経由が約29%、組織に未従事者（主婦、無職等）はポスター・ちらし約43%と口コミ以外の集客にも今回は一定の効果が見受けられた。

● 結果考察

セミナーの中で最も関心があった内容は、第2部の模擬相談会であったと参加者の約52%が回答している。情報収集後の活用はあくまで個人の努力によるものであるが、相談支援センターや緩和ケア病棟の紹介等は、健康である現時点では他人事と往々にして捉えがちである。しかし、今回は具体的に自分の身に置き換えられる事例を設定したことから、参加者の積極的に参加し情報収集しようとする姿勢を引き出すことに効果的だったと思われる。

今後、当研究会で取り扱ってほしい内容については主に「医療学生向き講演会」「経済的なことも含めた事例紹介」「歯に衣着せぬ、生の声が聞ける場」「がん治療と緩和ケア推進との関係をわかりやすく教えてくれるセミナー」等があった。緩和ケアに関心を寄せている医療系学生がいること、また、多くの参加者が生の情報を欲していることが浮き彫りとなった。

当研究会が開催するセミナーでは、今後のがんに対する治療法と、緩和ケアを受ける方法、どちらも両立して医療を受けるためにはどうしたらいいのかについて、情報提供者、実際にがんを体験している人の立場の両側面から、これらの内容を取り上げたいと考えている。

Ⅱ 『第2回城南緩和ケア 市民のつどい』 アンケート調査の目的および属性について

1 調査の目的

開催したセミナーの評価と、城南地域市民の緩和ケアに対する認知や関心を把握するため。

2 調査実施概要

(1) 調査対象者

平成21年7月25日開催の『第2回城南緩和ケア市民のつどい』参加者103名。

(2) 調査の方法

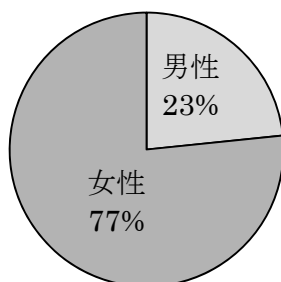
アンケート調査票を用い、配布回収をおこなった。

(3) サンプル数・回収結果

設定：103サンプル 回収：77サンプル 回収率：74.8%

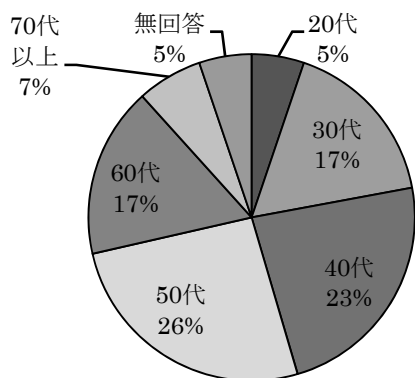
3 属性（回答者）構成

(1) 性別 男性18名、女性59名



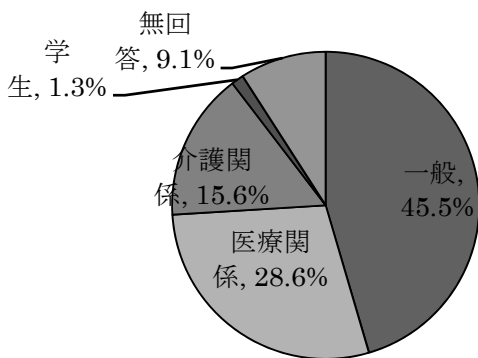
(2) 年代

平均年齢全体 50.40 歳 (男性 50.44 歳、女性 50.38 歳)



20代	4	5.2 %	60代	13	16.9 %
30代	13	16.9 %	70代以上	5	6.5 %
40代	18	23.4 %	無回答	4	5.2 %
50代	20	26.0 %	総計	77	100.0 %

(3) 職業

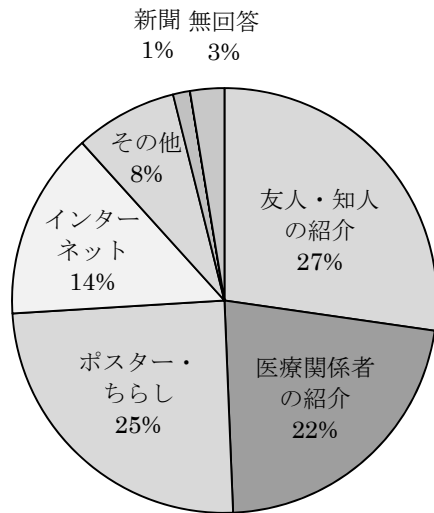


一般	35	45.5 %	学生	1	1.3 %
医療関係	22	28.6 %	無回答	7	9.1 %
介護関係	12	15.6 %	総計	77	100.0 %

Ⅲ 『第2回城南緩和ケア 市民のつどい』 アンケート調査結果

1. 当セミナーをどこで知りましたか

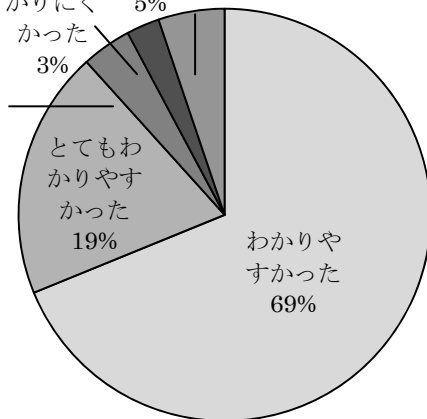
友人・知人の紹介	21	27.3%
医療関係者の紹介	17	22.1%
ポスター・ちらし	19	24.7%
インターネット	11	14.3%
その他	6	7.8%
新聞	1	1.3%
ケーブルテレビ	0	0.0%
無回答	2	2.6%
合計	77	100.0%



その他 ・ 雑誌「緩和ケア」

2. 特別講演1 「がんについての情報活用」について（情報提供者の講演）

わかりに とてもわ 無回答
 かった かりにく 5%
 4% かった

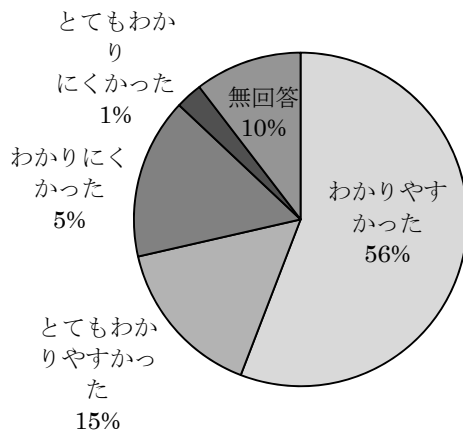


とてもわかりやすかった	15	19.5%
わかりやすかった	53	68.8%
わかりにくかった	3	3.9%
とてもわかりにくかった	2	2.6%
無記入	4	5.2%
合計	77	100.0%

その他感想等

- ・インターネットでの医療情報源の活用方法がよくわかりました
- ・探そうと思えばネットでかなり探せることがわかった
- ・団体の情報がよくわかり、よかったです

3. 特別講演2 「がんと共に生きる～がんの診断を受けさまざまな選択の中で～」について（がん体験者の講演）

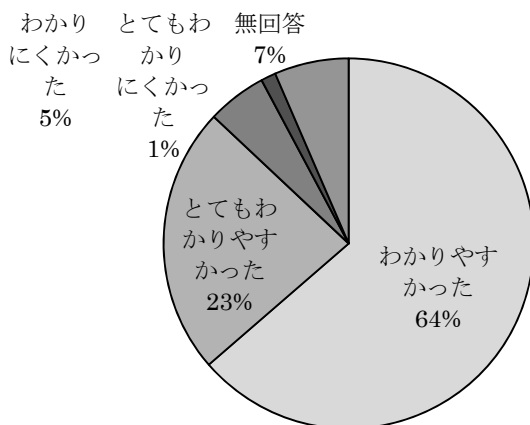


とてもわかりやすかった	12	15.6%
わかりやすかった	43	55.8%
わかりにくかった	12	15.6%
とてもわかりにくかった	2	2.6%
無回答	8	10.4%
合計	77	100.0%

その他感想等

- ・一人のがんサバイバーの生の声は重みがあった
- ・時間が許せば、講演者の気持ちの変化や病気への向き合い方や姿勢をじっくり聞きたいです
- ・医療者側におまかせという患者さんがいる中で、実際に疾患について深く勉強している患者さんがいると、医療者側も、もっと勉強していかなければと刺激になりました

4. 模擬相談会 「緩和ケアを考えるとき」について

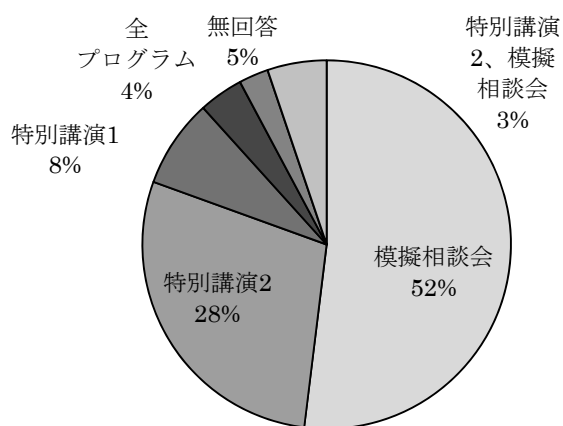


とてもわかりやすかった	18	23.4%
わかりやすかった	49	63.6%
わかりにくかった	4	5.2%
とてもわかりにくかった	1	1.3%
無回答	5	6.5%
合計	77	100.0%

その他感想等

- ・緩和ケア病棟は入所が難しいと聞いていたが、他のサービスを上手に使えたらと思いました
- ・内容はとてもよかったですのですが、短い時間で内容が盛りだくさんで、少し濃すぎた感じがします。もっと一人一人のアドバイザーの方のお話が聞けると良かったと思います
- ・ケア病棟があることや、病院の窓口で相談がある等、情報が得られてよかった
- ・この先自分自身がこのような立場になった場合の心強い指針となりました

5. 今日のプログラムの中で最も関心を持った内容はどれでしたか



模擬相談会	40	51.9%
特別講演 2	22	28.6%
特別講演 1	6	7.8%
全プログラム	3	3.9%
無効回答	2	2.6%
無回答	6	7.8%
合計	77	100.0%

6. 今後企画してほしい内容や、当セミナーに対するご意見ご感想等

- ・医療学生向けの講演会もやっていただけたら嬉しいです。
- ・ぜひ各日内容プログラム、レジュメ等、ブログのような形で公開・記録されてはと思います。
- ・地方に行った場合の緩和ケアの状況や対応できる施設の情報。
- ・患者、医療者ともに歯に衣を着せず、真実を語ろうとする人の話をもっと聞きたいです。
- ・コミュニケーション、相談できる窓口がわかり、心強く思います。
- ・ターミナルの方がどんどん増えています。もっと具体的な（経済的なことも含めた）事例などを挙げて頂いたらよかったですと思います。
- ・がん治療と緩和ケア推進との関係をわかりやすくするセミナーを、「何度も」企画してください。
- ・患者・家族の生の声が出やすいセミナーの企画。